[様式 2-3表]

第二種奨学金貸与月額変更願(届)(増額)

独立行政法人
日本学生支援機構理事長　殿

記入例

奨学生番号		学籍番号	JS111	提出日	西暦　20X3　年　11月　24日
8 X 3 0 4 0 0 2 1 1 2				生年月日	西暦　20X4　年　10月　1日（満　19　歳
日本学生支援機構	大学（院） 短期大学 学校	奨学金	学部　貸与　学科（科） 課程　研究科　1　年次	フリガナ 氏名（自署）	キコウ　タロウ 機構　太郎　（機構）

変更後の借用金額（予定・総額）	3 1 8 0 0 0 0 円

【機関保証制度の場合の例】
変更後の借用金額に訂正が生じたので、
金額全体を二重線で抹消し、本人の訂正印を
押印。氏名横にも同一の印鑑を押印。
※人的保証制度の場合は、
連帯保証人・保証人の訂正印も必要。

■ 月額変更　（「変更可能月額一覧表（第二種奨学金）」を参照して記入してください。）

希望する増額始期（注）	西暦 2 0 X 3 年 1 1 月から	「希望する増額始期」については、本願出の提出日の属する月以降を記入してください。	
従前の奨学金月額	4 0 0 0 0 円	希望する奨学金月額	~~6 0 0 0 0~~ 7 0 0 0 0 円
変更する理由	アルバイトを減らし、資格取得の勉強時間を確保するため。		

変更後の借用金額以外の訂正には
訂正印の押印は不要。

■ 保証制度

□ 連帯機構保証人

私は，上記の貸与月額の増額を承諾し，記載の奨学生番号によって本人が負担する一切の債務につき，奨学金の返
誓約書等にしたがって債務履行の責を負います。

〒

【増額反映月が増額始期の次月以降になる場合の振込例】
（本例では1月振込反映の申請期限までに不備が無い状態で機構に届いた場合を想定しています。）

希望する増額始期を提出日の属する11月としているところ、実際には11月分の振込は既に完了しており、
12月分も従来どおりの40,000円が振り込まれる。

11月24日提出　11月始期を希望

	10月	11月	12月	1月	2月
希望	4万円	7万円	7万円	7万円	7万円
↓		↕ 差額 3万円	↕ 差額 3万円	→ 計6万円	
実際	4万円	4万円	4万円	13万円	7万円
		↑ 増額始期：11月		↑ 振込反映月：1月	

11月から7万円としたいが 11月は既に振込が完了	1月振込反映の提出期限に提出 されたため、12月も振込4万円	1月に希望の額＋差額の振込 2月から希望額での振込

1月振込分にて希望の70,000円および従来との差額30,000円×2か月分の計130,000円が振り込まれ、
2月以降は希望の70,000円の振込となる。